

放課後等デイサービス自己評価表（事業者向け・保護者向け） 実施報告書

令和3年2月27日

社会福祉法人つみき  
つみき第7  
管理者 佐藤 顕紀

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、下記のとおり自己評価・保護者からの評価を実施しましたのでご報告いたします。

記

1、実施概要

自己評価表：常勤職員2名・非常勤職員2名を対象に実施。

実施日：令和3年1月8日

保護者向け評価表：利用者保護者23名を対象に実施（有効回答12件）

実施期間：令和2年12月28日～令和3年1月8日

2、評価方法

自己評価表・保護者向け評価表の結果を参考に、意見の多かった点について職員間で討議。

3、公表方法

ホームページにて公表。広報誌『つみき新聞』にてその旨を告知。

#### 4. 主な工夫している点

##### 【設問 1】子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか

・・・「人数が増えたからか、とてもせまい様に感じる」というご意見有り。実際、今年度の1日平均の利用者数は、昨年度の9人から11.6人に増えている(13人が利用する曜日もあり)。又、今年度は小学校の1～2年生が9名程、新規に入会された為、5時間授業後に参加の利用者が、公文学習後の余暇時間を室内で過ごす場合に、6時間授業後に参加の利用者が16時以降も学習をしている環境内で、お互いの活動スペースを守るという状況はこれまで以上に難しくなっている。その為、昨年8月以降に以下の備品を購入、設置して環境の改善を図った→【3人掛けのソファ】は、既存の3人掛けソファとL字型になるように配置、学習エリアとの明確な区分けを行った。更に、これまでは(ソファが埋まっていた)地べたに本や漫画を広げて読む利用者の様子が見られたが、座る場所が2倍に増えた事で、玩具で遊びたい利用者が床に広げられるスペースの確保にもつながっている。【ラック】は、これまでテレビ台の周辺に積み重ねていた玩具ボックス類を3段のラックにまとめて収納した事で、床部分のスペースが広くなり、利用者自身が目的の物を平易に出し入れしやすくなった。【折り畳みテーブル】は、これまで既存の予備机1台や学習机等を転用して工作やおやつ作りを行っていた状況から、学習エリアから離れたスペースに設置して設定活動をする事や、チームを分けた環境等も取りやすくなった。【高さ調節機能付き・机】は、既存の机では高さがあり過ぎる低身長の利用者に向けて設置。昨年度に購入した高さ調節機能付き・椅子と合わせて活用する事で、学習姿勢の安定につながっている。

【設問 3】事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切にされているか・・・「バリアフリーになると、入口にステップ・階段(高さ)があるので、ケガなどを行っている時はフォローが必要になるかもしれないです」というご意見有り。昨年度までの解答(公表している記述)と変わりはないが、特に1階入口～階段エリアの照明具が切れると真っ暗となる為、怖くて利用者が中々入れないというケースも先日あった(普段は朝から常時点灯させているが、その日は3箇所の照明が全て点かず、建物のオーナーに対処して頂くまで時間を要した)。

##### 【設問 5】活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか

・・・今年度は、長引くコロナ禍で、公共交通機関を使った外出活動が学校休業日等の長期休み時も行えず、近隣の商業施設内の飲食コーナーでおやつを食べるという活動も出来ない状況にあった為、公園遊びや買い物といった外出以外で、室内での活動プログラムの充実を図ってきた。テレビゲームやボードゲーム、ビンゴゲーム、といった多人数で参加して遊べる物から、おやつ作り(今年度は、これまでのホットプレートや電子レンジにプラスして、トースターやたこ焼き器も導入)、特に季節の工作等は、内容を変えたりしながら変化を持たせるように留意している。また、利用者から「これがしてみたい」「作りたい」「(自習プ

リントや読書タイムの本等も含めて) これをやりたい(読みたい)等の希望があった場合には、随時プログラムに反映させながら、達成感やさらなる興味を獲得する機会としている。

**【設問 6】** 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか

・・・「コロナが落ちついたら、障害有無関係なく、交流が楽しめる機会があると嬉しいです」というご意見有り。コロナ禍の状況で、前年度まで行っていた児童館への立ち入りは現在も自粛中。公園では、水鉄砲で遊んでいる利用者等の様子を見た近隣の児童が「(一緒に)入れて」と自宅から水鉄砲を持参してきたの飛び入り参加や、鬼ごっこやローラー滑り台等の最中に、近隣の年少の児童が混ざって、利用者がお兄さん(お姉さん)的に関わる等の自然発生的な交流は、稀に見られている。

**【設問 9】** 保護者に対しての面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか

・・・「いつもアドバイスを頂き、とても助かっています」とのご意見有り。コロナ禍の状況で、部署毎での今年度の前後期面談は中止している。その分、相談を受けた事柄も含めて、お迎え時の引継ぎの際に、学習や活動の様子と合わせてお話出来る保護者に対しては、必要に応じて助言等を行っている。特に、今年度から利用を開始した新小学1年生に対しては、場面転換時(遊びから学習)の気持ちの切り替えといった部分や、鉛筆の持ち方から学習姿勢や集中の維持、成績表書きやファイル綴じ(紐結び)といった学習作法の部分も含めて、利用者の過度な心身の負担(ストレス)とならないように留意しながら支援する中で、成長面や課題といった経過報告を、保護者に丁寧に伝えるようにしている。

**【設問 10】** 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか

・・・「コロナの中なので仕方ない」「今年はコロナもあるためか、保護者との関わりは特別ありませんでした」とのご意見有り。今年度は、例年11月に行われる活動報告会も実施不可だった為、保護者同士が顔を合わせる機会は作れず。その分、保護者が子どもの利用曜日以外も含めた活動の様子を知る手立てとして、年一回発行の「活動便り」(冊子)や写真販売等で情報提供の一助としている。

**【設問 17】** 子どもは通所を楽しみにしているか

・・・「とても楽しみにしています」「遊びや勉強、クッキング、季節のイベントを嬉しそうに取り組んでいる。ありがとうございます」とのご意見有り。今年度は、コロナ禍という状況で、保護者側から「遊興施設での活動には参加させないで下さい」といった申し出があった以外にも、周囲の不安を敏感に感じ取った利用者本人から「(公園等の)外出活動は(コロナが収まるまで)行きたくない」という発言も聞かれた。**【設問 5】**の解答と重複する為、

工夫している点などは割愛するが、例え緊急事態宣言下等で活動内容に制限のある環境の中であっても、利用者がそれぞれの楽しみ方を見つけて、満喫する様子は変わらず続いている。

#### 5. 主な改善すべき点（改善目標）

【設問 16】非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか

・・・「避難訓練は、定期的であれば、万が一の時に子がパニックになりにくくなるかもしれないです（見通しがたつという意味で）」というご意見有り。今年度の改善目標として掲げていた3ヵ月に1回ペースの避難訓練実施は達成出来ず。但し、職員による自衛消防訓練や、ほぼ全ての利用者に対して、最低一回の（地震想定）避難訓練を実施する事は出来た。

以上